

15TH
Anniversary開館
15周年

花巻市 博物館

目次／P1 開館 15 周年／P2-3 年間行事予定、講座・体験学習
メニュー／P4-5 テーマ展「チベット仏教研究者 多田等観」／
P6 活動レポート：[小中学校 出前授業・講座]／P7 館長コラム・
行事予定・インフォメーション／P8 花博コレクション



だより

2019. 4
No. **57**



南部家伝来 鷹頭御陣太刀拵（左）・鳳凰御陣太刀拵（右）（岩手県指定有形文化財）当館所蔵

花巻市博物館は、2004年4月に開館してから、今年で15周年を迎えました。

開館記念と銘打って行った「盛岡南部家20万石の美」という第1回企画展は、岩手県内はもとより全国に残る盛岡南部家ゆかりの優れた美術・工芸品のなかから約100点を選び、名品の美を間近に鑑賞してもらうとともに、文化財について考えるきっかけづくりの場を提供するという目的のもとに開催されました。南部家に伝来した鷹頭御陣太刀拵・鳳凰御陣太刀拵はともに展覧会の目玉として来館者の目を引き、この企画展は予想をはるかに超え2万1000人以上の来館者数を記録しました。

あれから15年、長い時間の中で育まれた花巻の風土と歴史をたどる当館の展示は、これからも皆様の豊かな人間性をさらに発展させる一助となることでしょう。

展示会のご案内

●テーマ展「台焼－受け継がれた業」

期間：開催中～5月6日（月・振休）

花巻を代表する焼き物「台焼」。親子5代にわたり受け継がれた業と世代によって変化する作風をお楽しみください。

●テーマ展「花巻人形－菊池コレクションを中心に」

期間：開催中～5月6日（月・振休）

花巻市東和町出身の花巻人形蒐集家・菊池正樹氏（東京都在住）から寄贈された花巻人形の中から選りすぐりの約300点を紹介します。

☆関連事業

「春うらら 童謡・唱歌 ミニ・コンサート」

日時：4月14日（日）14：00～

出演：玉山朱美とイーハトーブ音楽隊

●テーマ展「チベット仏教研究者 多田等観」

期間：6月15日（土）～7月15日（月・祝）

高名なチベット仏教研究者が現地から持ち帰った仏像や仏画、花巻との心温まる交流を示す資料などを紹介します。

☆関連事業

ギャラリートーク



釈尊絵伝「本尊」

●開館15周年特別展「発掘された日本列島2019」

期間：8月2日（金）～9月10日（火）

日本各地で行われている発掘調査の中から、近年発掘され、その調査結果が特に注目を集めた遺跡を速報で紹介します。

～同時開催～

地域展示「花巻城－南部領の成立と展開」

☆関連事業

講演会、ギャラリートーク、

ワークショップ「ミニチュア土器づくり」等

●テーマ展「収蔵資料展－どうぶつ集合！」

期間：9月24日（火）～11月17日（日）

いつの時代も、私たちのそばには動物たちがいました。本展では、博物館収蔵資料の中から動物にまつわる資料を紹介すると共に、動物と人間の関わりについて探ります。

☆関連事業

ギャラリートーク

八重樫豊澤筆
「兎図」



●共同企画展 ぐるっと花巻・再発見！～イーハトーブの先人たち～「松川滋安と揆奮場」

期間：12月7日（土）～翌1月26日（日）

古くからの城下町である花巻に、文武の藩学設立の希望を抱いて立ち上がった男がいました。彼の名は松川滋安。花巻御給人の家に生まれ、揆奮場を設立して藩に献納しました。苦難を乗り越える努力と意志の大切さを学びます。

☆関連事業

学芸員講座「松川家文書に見る松川滋安」

ギャラリートーク



滋安が愛用した眼鏡

●テーマ展「花巻人形」

期間：2月15日（土）～5月6日（水・振休）

館が誇る500種3,000点以上にも及ぶ花巻人形のコレクションから、華やかに彩られた逸品をご紹介します。

☆関連事業

ギャラリートーク

花巻人形絵付け体験



花巻人形「福祿寿」

※展示・関連事業とも内容に変更がある場合があります。
あらかじめご了承ください。



講座・体験学習メニュー



博物館では、花巻の歴史や文化をより詳しく、そして楽しく学んでもらうために、講座や体験学習を行っています。2019年度も様々なメニューを用意しましたので、ぜひご参加ください。

【体験学習】

●勾玉づくり

日 時：2019年5月3日（金・祝）

8月11日（日・祝）

午後1時30分から

内 容：滑石を削って、磨いて、古代のアクセサリ「勾玉」をつくります。

材料費：340円

定 員：20名



●琥珀玉づくり

日 時：2019年5月4日（土・祝）

8月12日（月・振休）

午後1時30分から

内 容：琥珀を削って、磨いて、古代のアクセサリ「琥珀玉」をつくります。

材料費：810円～

定 員：20名



●縄文弓矢・火起こし体験

日 時：2019年5月5日（日・祝）

午後1時30分から

内 容：弓矢を使った的当てと、木を使った火起こしに挑戦します。

参加費：無料

定 員：20名



●プラ板キーホルダーづくり

日 時：2019年5月6日（月・振休）

8月18日（日）

午後1時30分から

内 容：プラ板に花巻人形など博物館資料のデザインを描いてキーホルダーを作ります。

材料費：1枚100円

定 員：20名



●花巻人形絵付け体験

日 時：2019年7月21日（日）

2020年3月22日（日）

内 容：平賀工芸社の平賀恵美子さんを講師に迎え、花巻人形の絵付けを体験します。

参加費：1,600円～

定 員：20名



【講座】

●館長講座

聴講無料・申込不要

第1回 6月29日（土）多田等観

第2回 8月24日（土）列島展関連

第3回 3月14日（土）花巻人形

●古文書講座

参加無料・要申込

「はじめての古文書」 全5回（12月～1月）

※縄文弓矢・火起こし体験以外の会場は全て講座・体験学習です。

※講座・体験学習ともに内容に変更がある場合があります。あらかじめご了承ください。

チベット仏教研究者 多田等観

期間：2019年6月15日(土)～7月15日(月・祝)

■チベットに行くまで

多田等観^{た どうかん}は、明治23年(1890)7月1日、現在の秋田市土崎港中央にある浄土真宗本願寺派・弘誓^{ぎ かん}山西船寺^{ぜいざんさいせんじ}に14世義観の三男として生まれました。

非常に度胸のある子どもだったようで、他の兄弟が躊躇^{ちゅうちう}する中、檀家さんの前で堂々と説法した



秋田中学卒業時

というエピソードがあります。中学校時代、実家の家計を考えて、3年間家の手伝いをし、お金を貯めて学校へ通っていました。

明治44年(1911)2月に京都へ向かい、西本願寺で得度入籍すると、宗祖である親鸞聖人

650回大遠忌法要を手伝いました。

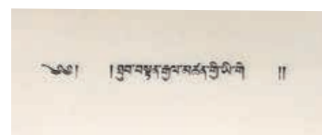
その法要が終わると、門主である大谷光瑞^{おおたにこうずい}のもとに呼ばれます。チベットのダライ・ラマ13世が派遣してきた3人の留学生の世話係に抜擢されました。まったく思いもよらないことでしたが、これが等観とチベットを結びつけ、一生をチベットに捧げることになるきっかけでした。

■ダライ・ラマ13世との出会い

明治45年(1912)に、中国で辛亥革命がおり、その混乱の中、ダライ・ラマ13世はチベットへ帰国します。それに合わせて留学生たちにも帰国命令が出され、等観は、留学生をインドまで送り届けます。

インドでは、ダライ・ラマ13世に謁見^{えっけん}を許され、

「トゥプテン・ゲンツェン」というチベット語の法名をもらい、チベットで修業するように言われますが、等観は1年間迷います。ちなみにトゥプテンとは、「釈迦無二の教え」という意味であり、ダライ・ラマ13世の本名からいただきました。「ゲンツェン」は僧という意味です。



等観が使用していた便箋(左)。便箋の上に「トゥプテン・ゲンツェン」が書いてあり、印が押されている(上記拡大部分)。

■チベットへ入国

チベットでの修行を迷っていた等観ですが、大谷光瑞から「インドで滅びた仏教はチベットに伝わるのみであるから、国への思いを絶ちダライ・ラマ13世の指令により、長期にわたりチベット仏教の研究に研鑽せよ」との入蔵命令書が届きます。

決意した等観はインドからチベットを目指します。しかし、当時のイギリス・インド政府による厳しい取り締まりのため、簡単にチベットへは入国できませんでした。策を練って、取り締まりの目をかいくぐり、8,000 m級のヒマラヤ山脈を裸足で越え、35日間歩き続けるという苦難の末、チベット入国を果たします。

チベット僧としての等観は、チベット大蔵経をはじめとした仏教関係の典籍の収集につとめました。当時のチベットは鎖国状態にあったので、帰国に際して請求したチベット仏教関係の資料は、世界中の



テルゲ版大蔵経

研究者も目にした事のない貴重なものばかりでした。

チベットで約 10 年にわたる修行を行い、外国人として唯一、チベット仏教の最高学位であるゲシェー（大僧正）の称号を与えられました。また、滞在中は、ダライ・ラマ 13 世の非公式な顧問として活躍しました。

■チベット仏教研究者の功績

帰国後の等観は、東北帝国大学、東京帝国大学等に籍を置き、講義をするかわら、請来した資料の整理を行いました。その成果として、昭和 9 年（1934）に東北帝国大学法文学部から『^{チベット}西藏大蔵経総目録』を、昭和 28 年（1953）には東北大学文学部から『西藏撰述仏典目録』を刊行しています。それが認められ昭和 30 年（1955）に日本学士院賞受賞、昭和 42 年（1967）には勲三等旭日中綬章を受章しています。

この二つの刊行物は、世界のチベット仏教研究者のテキストとして大きな賞賛をもって受け入れられました。

■花巻とのかかわり

このようなチベット学の国際的権威者と花巻とを結びつけた契機は、第二次世界大戦でした。終戦が近づいた昭和 20 年（1945）、等観の自宅があった姉崎（現、千葉県市原市姉崎）は、空襲の被害が予想されていました。請来資料を戦禍から守るために、弟の鎌倉義蔵^{かまくら ぎさう}が住職を務めていた花巻の光徳寺に疎開させたのです。これらの資料を大切に守ってくれたのが、光徳寺の檀家の人々でした。

これが縁となり、終戦後、等観は花巻にたびたび足を運び、資料を保管してくれた家の人々との交流を行うようになりました。昭和 22 年（1947）には、花

巻西郊の円万寺観音山に等観が花巻に来た時に滞在するための「一燈庵」^{いっとうあん}を地元の人々が建てました。



円万寺観音堂にある一燈庵

こうした人々の思いを受け止めた等観は「一燈庵」の隣にあり、古くから人々の信仰を集めていた円万寺観音堂の本尊として、千手千眼十一面観音立像を本尊として納めました。

それから 20 年あまり、花巻の人々は等観に対する感謝と尊敬の思いを持ち、交流を続けてきました。その人々の思いは今でも受け継がれています。

今回の展覧会は、数奇な運命から、後にチベット学の国際的権威として、高く評価された人物である多田等観の生涯を振り返り、世界でも類をみない「釈尊絵伝」^{しゃくそんえでん}やチベットの仏画、仏像、生活用品も紹介します。貴重なチベットの資料や花巻の人々が等観に寄せた思いなどを感じ取っていただきたいと思います。



昭和41年（1966）東洋文庫前にて

（学芸員 小原 伸博）

▼関連事業

ギャラリートーク

学芸員が展示の解説をします。

日 時 7月6日（土） 13：30～14：30

場 所 企画展示室

※要入館料・申込不要

活動レポート

小中学校「出前授業・講座」の様子

当館では、例年 2,000 名を超える児童生徒の皆さんにご利用いただいております。その半数は見学、もう半数は出前授業です。そのため、出前授業のプログラムを少しずつ開発しながら充実させてきました。今回は、出前授業の様子をご紹介します。

1. 「昔の道具と暮らし」(小学校3年)



わお！

(↑桜台小学校3年生)

社会科の3学期の単元なので、1月下旬～2月中旬に依頼が集中します。行燈や炭火アイロン等、昔の道具12点ほどを持ち込み、児童に触って観察してもらいます。子どもたちは、皆興味津々でふたを開けてみたり、使ってみたりして学習を深めました。

2. 「戦国時代と武具」(小学校6年)



お、重い！

(↑大迫の3小学校6年生合同授業)

実物の甲冑着用体験、実物火縄銃と模造刀に触ってみる体験をしました。実物の重さに驚き、重装備で戦う武士の大変さに思いをはせていました。

3. 講座「花巻空襲」(中学校3年)



本物の爆弾の破片って鋭いね。

(↑宮野目中学校3年生)

始めは出前授業の予定でしたが、資料の数の多さから来館しての講座となりました。生徒は、戦時中の実物資料を観察し、悲慘さを感じ取っていました。

4. 「縄文時代の暮らし」(小学校6年)



これは矢沢にある久田野遺跡から出土した物です。

(↑矢沢小学校6年生)

パワーポイントを用いて児童に分かり易く解説し、時にはクイズも織り交ぜます。学芸員が、地元の遺跡から出土した資料であることを伝え、児童は驚いて覗き込んでいました。

このほかにも、「多田等観」「花巻電鉄」のプログラムがあります。

博物館では、豊富な資料を活かして出前授業や講座を行い、学校と連携しながら、児童生徒の学習を深めるための一端を担っています。

(社会教育指導員 菊池恵津子)

館長 コラム

兵隊

花巻人形は、江戸時代の盛岡藩領花巻で誕生した土製の郷土人形である。江戸時代後期に全国各地で花開いた郷土人形は、明治維新という新たな社会改革と共に西洋文化等の導入などの影響もあり次第に衰退したとされている。そうした中で花巻人形は、明治時代になっても伝統的な人形作りを行いながら、新たな明治時代の風俗や日清・日露戦争等の兵隊等を題材とした人形を作り発展を遂げている。

明治時代の花巻人形には、背面に「大元帥陛下」と墨書された明治天皇像をはじめ騎馬の軍人や旗持ち兵隊やラッパ持ち兵隊等々様々な人形がみられる。その一つに石垣と楼門の横に槌を担いだ兵隊の人形がいくつか確認されており、その中の一つに墨書で背面に「原田重吉 玄武門破壊の場」と記された人形がある。

玄武門は、朝鮮半島北部の要衝である平壤の玄武門であり、原田重吉は、日清戦争の英雄として金鵄勲章功七等を授けられた原田一兵卒である。平壤は、日清戦争にお

ける最初の本格的な陸戦となった場でもある。明治27年(1894)9月15日、日本軍が平壤への総攻撃を開始する。この時最初に城門を突破したのが原田重吉である。花巻人形の「兵隊(原田重吉)」は、日清戦争の歴史を語る格好の資料ということになる。

花巻人形にはこの他に下関条約と名付けられた伊藤博文と李鴻章の人形も確認されている。また、砲兵の人形の背面には、墨書で「我 砲兵 旅順口総攻撃ノ場」と記された人形もある。旅順口は、遼東半島の最西部にある天然の良港である。19世紀末のロシア帝国は、太平洋艦隊の根拠地として要塞を建設し、日露戦争で旅順口の攻防が、最大の争点となっていた。第三次旅順口総攻撃では、攻撃の主力を203高地へと変更し、旅順要塞に突入し、ロシア軍が降伏する。この総攻撃で活躍したのが榴弾砲(大砲)であった。砲兵の花巻人形は、日露戦争を象徴する人形と言えなくもない。

昨年は、明治150年に当たり、式典や展示会など様々なイベントが各地で行われ、明治時代の歴史資料が注目されたが、花巻人形も明治時代を物語る貴重な歴史資料といえよう。

(館長 高橋信雄)

行事予定

2019年7月
2019年4月

企画展示室

- テーマ展「台焼 - 受け継がれた業」
会 期：開催中～5月6日(月・振休)
- テーマ展「花巻人形
- 菊池コレクションを中心に」
会 期：開催中～5月6日(月・振休)
- ◇春うらら 童謡・唱歌 ミニ・コンサート(無料)
出 演：玉山朱美とイーハトーブ音楽隊
日 時：4月14日(日) 14:00～
場 所：花巻市博物館エントランスホール
- テーマ展「チベット仏教研究者 多田等観」
会 期：6月15日(土)～7月15日(月・祝)
- ◇ギャラリートーク(要入館料)
日 時：7月6日(土) 13:30～14:30
場 所：花巻市博物館企画展示室

講座・体験学習

- 【講座】
6月29日(土)館長講座-1「多田等観」
- 【体験学習】
5月3日(金・祝) 勾玉づくり
5月4日(土・祝) 琥珀玉づくり
5月5日(日・祝) 縄文弓矢・火起こし
5月6日(月・振休) プラ板キーホルダーづくり
7月21日(日) 花巻人形絵付け体験

※内容に変更がある場合があります

※時間は全て13:30～15:00

* 無料公開日 *

4月24日(水)開館記念日
5月19日(日)国際博物館の日

花巻市博物館

〒025-0014 岩手県花巻市高松 26-8-1

電話：0198-32-1030 FAX：0198-32-1050

開館時間：午前8時30分から午後4時30分まで

休館日：12月28日から1月1日まで

入館料	小学生・中学生	150(100)円
	高校生・学生	250(200)円
	一般	350(300)円

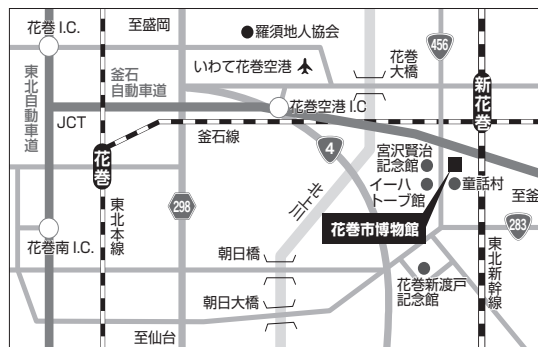
※()内は20名以上の団体割引料金

※割安な近隣4館共通券もあります。

※特別展示を行う場合、入館料を定める場合があります。

交通案内

- 東北新幹線
新花巻駅より車で3分
- 東北本線
花巻駅より車で約15分
- 釜石自動車道
花巻空港 I.C.より車で約5分
- バス
新花巻駅より約5分
岩手県交通 土沢線
イトーヨーカドー行
賢治記念館口下車



◇ URL <http://www.city.hanamaki.iwate.jp/bunkasports/501/hanamakisihakubutukan/>

花博 コレクション

Hanahaku collection



『忍び駒』

小 15.0 × 5.5 × 2.5cm 中 20.5 × 13.0 × 4.2cm 大 25.5 × 15.5 × 5.0cm



『忍び駒のお年玉郵便切手』

昭和 41 年 (1966)
3.0 × 2.5cm

しのこま 忍び駒

花巻市湯口の円万寺^{えんまんじ}観音や石鳥谷町大興寺^{だいこうじ}の土仏観音は古くから縁結びのご利益がありました。祈願する人は人知れず夜間にお参りしてワラ馬を供え、願いが叶うと、色とりどりの布で飾って、再び供える風習があったと伝えられています。

忍び駒は、このような信仰にちなみ、花巻温泉に土産物店を開いていた業者によって、昭和 3 年 (1928) に土産玩具として創案・商品化されました。

昭和 41 年 (1966) には、年賀切手の図案に忍び駒が採用されました。博物館には、円万寺観音とも関わりの深い^{ただとうかん}多田等観が、このことを喜ぶ内容の手紙が所蔵されています。

馬のように古来から人とともに生活していた動物たちは、現代においても土産物や玩具、縁起物などに形を変え、私たちの暮らしのそばに存在しています。

(学芸調査員 松橋香澄)